

黒潮の恵み

黒潮（日本海流）は、足摺宇和海国立公園に南からの暖かさをもたらします。黒潮のおかげで四国の南岸沿いでは気候が穏やかで、また沿岸にはサンゴ、熱帯魚、およびウミガメなどの多様な海洋生物が暮らしています。クマノミ、茶色がかった緑色のサザナミヤッコ、および数種類のチョウチョウウオなどの魚が海流に乗ってここまでやってきます。エキゾチックな種子や貝殻も国立公園内の砂浜に打ち上げられていることがあります。ココナッツやサキシマスオウノキがこれまでに発見されています。

土佐清水地方の漁業は黒潮の恵みを大きく受けています。黒潮が室戸岬とさらに東にある紀伊半島にぶつかると、逆流と呼ばれる現象が起きます。すぐ沖の海中の特殊な地形と相まって、逆流した流れはカツオやヒラソウダガツオなど海流に乗って回遊する様々な種類の魚に最適な条件を作り出します。このように多くの魚が育まれることで、地元の漁師の生活が支えられ、また土佐清水は漁業文化で知られることになりました。